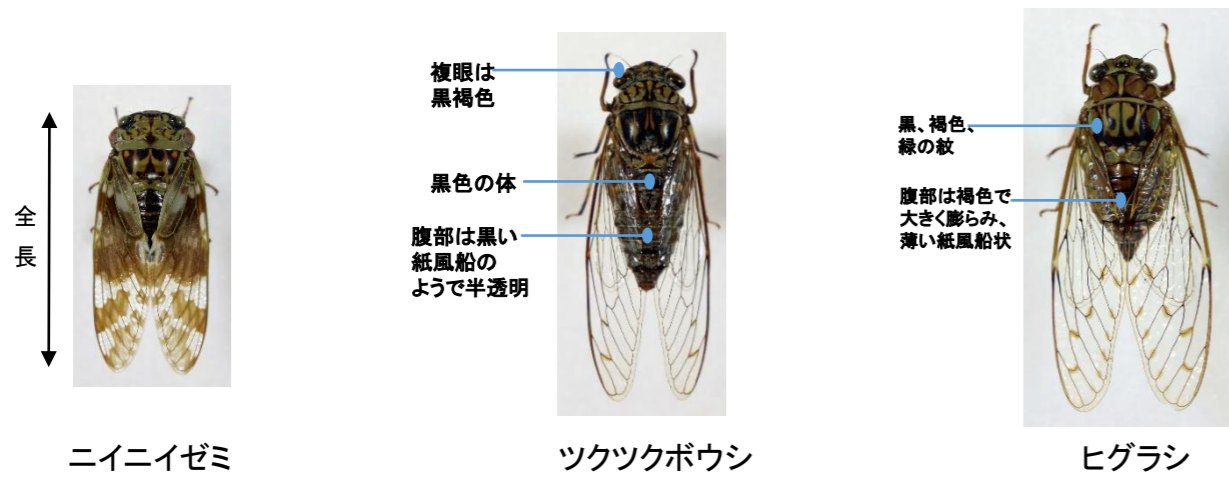


セミを観察しよう！「背割堤のセミ図鑑」

セミはカメムシやアメンボなどと同じ半翅目という仲間の昆虫です。日本には37種類(36種, 1亜種)のセミがいます。背割堤では6月下旬から9月下旬までセミが見られます。枯れ枝などに産み付けられたセミの卵は、孵化後、地中にもぐり、4~5年後に地上に出て羽化します。セミの羽化は主に午後8時以降の夜間に行われます。羽化直後のセミは白く、やわらかな体をしています。朝になると飛び立って、樹液を吸って生活をします。近年、羽化後のセミの寿命は1週間以上あることが、中学生の研究によって解明されました。この研究で明らかになったセミの羽化後の生存日数は、最長でアブラゼミが32日、ツクツクボウシが26日、クマゼミが15日でした。セミをじっくり観察して、今日からセミ博士を目指しましょう！

◆ セミの成虫を調べよう！

◆ セミの幼虫を調べよう！



ニイニイゼミ
全長33~38mmの小型で、前翅にまだ模様(雲状紋)がある。後翅の中央部は黒色。6月下旬から8月下旬に見られる。鳴き声は「チー」と連続した高い音。

ツクツクボウシ
全長40~45mmの中型で、翅が透明。体は黒色で表面に金色の細かい毛が生えている。7月中旬から9月中旬頃まで見られる。鳴き声は「ツクツクポーシ」と聞こえる特徴的な音。

ヒグラシ
全長42~50mmの中型で、翅が透明。体は茶褐色で、緑色と黒色の斑紋がある。6月末から9月上旬頃まで見られる。鳴き声は「カナカナカナ」と聞こえる音。背割堤では、ごく稀に男山や山崎方面から飛来します。



ミンミンゼミ
全長55~65mmの大型で、翅が透明。体は黒地に緑色斑紋がある。7月中旬から9月中旬に見られる。鳴き声は「ミンミンミンミン」を数回繰り返す音。背割堤では、ごく稀に男山や山崎方面から飛来します。

アブラゼミ
全長53~58mmの大型で、翅が茶褐色で、黄緑色の翅脈がある。体は黒色。7月中旬から9月下旬に見られる。鳴き声は「ジー、ジリジリジリ」を何度も繰り返す音。

クマゼミ
全長61~60mmの大型で、翅が透明。体は黒地に銀白色の細かい毛が新鮮な個体に生えている。7月上旬から9月上旬に見られる。鳴き声は「シャー、シャー、シャー」と強い音。

ポイント①：体は小型で、体長が25mmより小さい

体全体にドロが付いている
体は小型で丸い形をしている
木の根元付近で見つかる

体はほっそりしていて、色がうすい
触角は7節で毛が少ない
木の幹や枝で見つかる

体の色は濃い
触角は7節で第4節が第3節よりも長く、毛が多い
木の幹や枝で見つかる
(背割堤では抜け殻未確認)

ポイント②：体は大型で、体長が25mmより大きい

体の色は、ややうすい
触角は7節で、毛が少ない
木の幹、枝、葉先などで見つかる
(背割堤では抜け殻未確認)

体の色は、ややうすい
触角は7節で、第3節が第2節よりも長く、毛が多い
木の幹、枝、葉先などで見つかる

体長は30mm以上ある
体の色は濃い
胸部の腹面に突起がある
触角は8節で、毛が少ない
木の幹、枝、葉先などで見つかる

抜け殻の側面

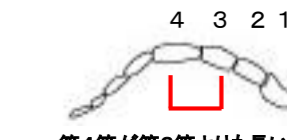
触角や腹面の特徴



ドロが付いてわかりにくい



第4節が第3節よりもやや短い



第4節が第3節よりも長い



第3節と第2節がほぼ同じ長さ



第3節が第2節よりも長い



胸部の腹面に突起がある



アブラゼミの羽化

観察ポイント！

7~8月の西日本の平地では、クマゼミの鳴き声が暑い夏の風物詩になっています。クマゼミは朝から午前中に鳴いていることが多いセミです。一方、関東ではミンミンゼミが市街地で日中に多く鳴いています。西日本でミンミンゼミは山地や森に生息するセミです。セミの種類は地域、時期、鳴く時刻などに違いがあります。背割堤で観察したセミの種類と家の近所、旅行先などで見られたセミの種類を比べてみましょう。



クマゼミ オス メス

オスとメスの違い(腹面)

オスには腹弁と呼ばれる発音器があります

抜け殻でわかるオスとメスの違い！



クマゼミ オス

メス

メスの腹部には産卵管のもとになる器官があります